

### Ⅲ. 各国報告（カナダ） 持続可能な酪農生産を実現するための課題やトリガーは何か！



## 次世代のカナダ酪農について

供給管理制度の継続的発展と“proAction”実践により  
消費者からの支持を得る

カナダ生乳生産者連盟（DFC）シニアエコノミスト スティーブ・クチュア氏

カナダ生乳生産者連盟（DFC）は、国内約 1 万 1000 の酪農場に暮らすカナダの農家を代表して、国家政策、ロビー活動、宣伝をする組織です。

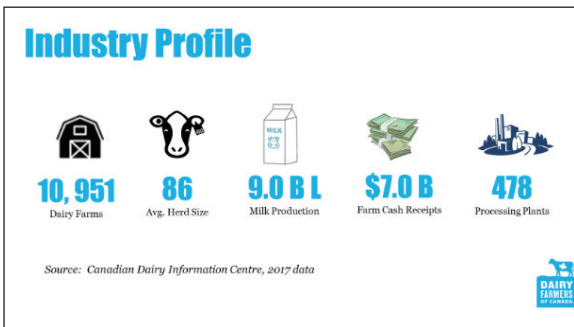
皆さま、こんにちは。ご紹介ありがとうございます。本日は国際比較研究会にお招きいただき、ありがとうございます。

本日の研究会の目的である酪農の持続可能性については、国によって酪農システムが異なりますので、アプローチの仕方もそれぞれ異なると思います。しかしながら、酪農家は類似した課題に直面しており、未来の世代が酪農乳業で働くことができるようにし、持続可能にしていくという最終目標は同じであると思います。本日の研究会では、私も学ばせていただきたいと考えております。

### カナダの酪農乳業概況



カナダ全土には約 1 万 1000 の牧場があり、約 90 億リットルの生乳を生産しています。そして約 70 億ドルの収入を得ています。この生乳は 478 の牛乳・乳製品工場で処理加工されており、Saputo グループ等の大手乳業会社に保有されています。乳牛の平均飼養頭数は約 86 頭で、家族経営です。搾乳は 1 日 2 回もしくは 3 回行われています（ほとんどは 1 日 2 回）。牧場主は牧場経営の専門家である必要があります、さまざまな最低限の知識が必要です。機器のオペレーターであり、繁殖を行い、大工であり、配管工であることも必要です。いろいろな仕事をしながら、一方で効率的かつ低コスト生産を行うことが求められています。

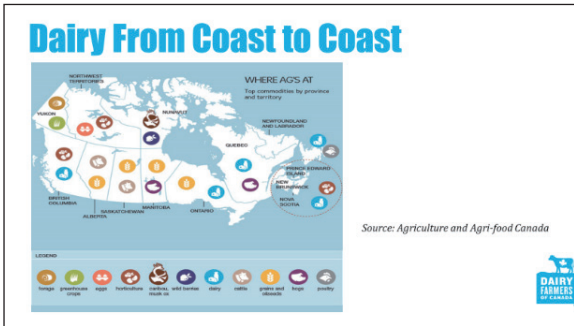


酪農は東海岸から西海岸まで分布し、これは我々にとって非常に重要な地図です。

青い円で示されている地域は、農業生産において牛乳生産が金額ベースで 1 位か 2 位の地域です。右側の大きな円は、酪農乳業がメインになっている 3 つの州です。全て合わせると、10 州のうち 7 州で酪農乳業が金額ベースで 1 位か

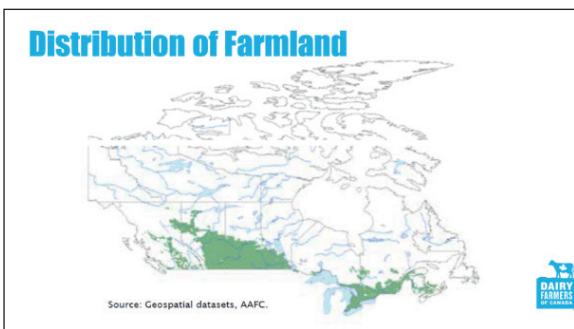
2位を示しています。とは言うものの、生産量の70%以上はオンタリオ州とケベック州（右側の州）が占めています。

この地図は、経済的・政治的な観点から非常に重要であり、いかに酪農乳業セクターが経済的に重要な位置を占め

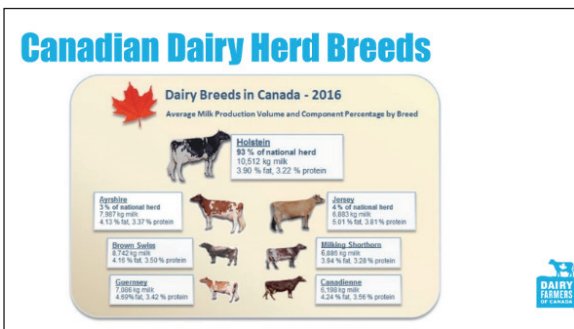


ているかということを示しています。一つの地域だけではなく、さまざまな地域において、多くの家族が直接あるいは間接的に乳製品の生産によって生計を立てていることを表しています。すなわち、酪農乳業に関連する仕事をしている人が多いということです。このことは、カナダ全土の選挙においても共感されることで、酪農乳業は一つの地域だけではなく、カナダ全土にわたって行われているから重要なのです。

酪農乳業全体として、約22万1000人の雇用を提供し、GDPベースで約199億ドルの貢献をしています。そうということから、自治体、州、さらには連邦レベルで多額の納税を行っています。一方、牛乳の生産販売において、補助金は受け取っていません。



カナダは広大な国です。しかし農地については狭い国です。カナダの農地は、アメリカとの国境線に近い約100km以内の地域がほとんどです。ここはまさに人口が集中していて、生産者も住んでいるところです。西側には草原が広がっていて、穀物が生産されています。五大湖周辺東側のセントローレンス川沿岸地域は最も土地が肥沃で農地に向いている地域です。ほとんどの酪農乳業は、このセントローレンス川の右岸で行われています。国が広大であるにもかかわらず、酪農乳業といった観点から見ると、カナダは小さい国であることが分かります。



カナダの酪農乳業では長年、ホルスタイン種が酪農家に選ばれており、乳牛の93%がホルスタインです。乳用牛改良の先進性は広く知られており、国内利用のみならず、世界中に輸出されています。

◀ proAction ▶



“proAction”は、酪農家主導の義務的な取り組みで、カナダ全土に幅広く認知されており、消費者にとっては酪農業者が適正規範を実践しているという安心にもつながっています。「牛乳の品質」、「食の安全」、「トレーサビリティ」、

「アニマルケア」、「バイオセキュリティ」、「環境」の六つの構成要素があります。

以前は、生産に関わる分野の基準・規制について、酪農家が順守すべき様々なものがありましたが、プログラムの調和や、カナダ全土における対応が求められるようになり、各種で様々なプログラムの検証を行い、プログラムを一つにまとめ、“proAction” と呼ばれるものが構築されました。

現在、それぞれのモジュールに適正規範を設定し、酪農家はこの“proAction”の準拠を主張することができるようになっています。“proAction”関連の仕事は増えますが、そのメリットは明らかです。

## 供給管理制度



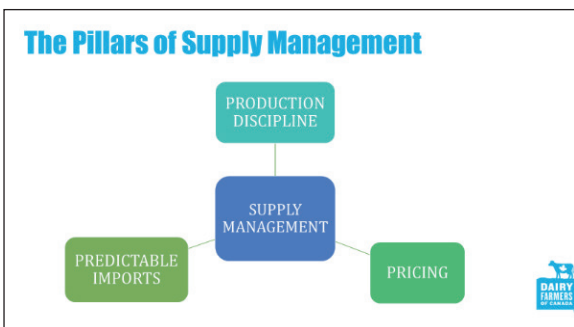
カナダの酪農乳業を約 50 年間にわたり形作ってきた供給管理制度の背景についてご説明します。

酪農業が専門化している今日、5 頭の牛と 10 頭の豚、そして 10 羽のニワトリ、そしてバックヤードがあるなどといった酪農業者を想像することは不可能です。しかし、第 2 次大戦後に酪農業が専門化するまでは、それが現実で、専門化するに従い輸出志向になると同時に、より市況に依存するようになりました。

牛乳乳製品は、季節性のある生産、さらに重要な特性である腐敗しやすいことから、市場で不利な立場に置かれるようになりました。市場のボラティリティが高いといったことだけではなく、価格もまた、生産コストをカバーできない状況になり、唯一の地元の買い手が提示する低価格を受け入れるか、牛乳を破棄するしか選択肢がなくなりました。どちらを選ぶかというのは明白です。



これらの問題に対処するため、酪農家は組合に結集し、供給管理制度が 1970 年代初めに始まりました。この制度を支える柱は 3 本あり、ともに重要な位置づけです。



1 本目の柱は【生産の統制】です。2 者間の取引契約のようなもので、まず製品販売量を確認し、酪農家が必要な量を余剰が出さないように生産しなくてはならないということです。

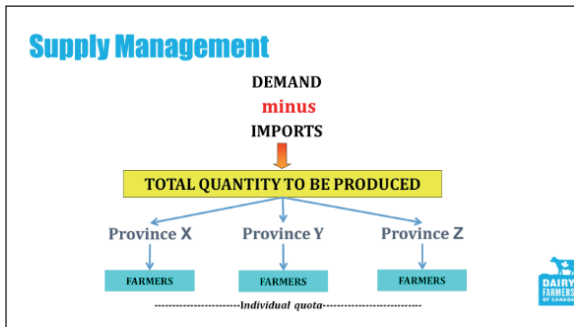
2 本目の柱は【価格】です。政府（カナダ酪農委員会）が管理しており、支持価格（バター、脱脂粉乳において、酪農家が公正な価格を受けられる価格）を設定しています。そして、乳価は支持価格から算出され、人件費と投資に対

する利益も含まれるものとされています。なお、この価格は酪農業者が市場から受け取るものであり、補助金などは含まれていません。

3 本目の柱は【輸入】です。これらの全ては輸入量の予測が成り立たないとうまくいきません。輸入を禁止しているわけではありませんが、政府によって関税割当制度（TRQ）が管理されており、市場へのアクセス割当額を超える関税が課せられます。すなわち、予測可能性がシステムの中に組み込まれています。

この 3 本の柱の 1 本でも傾いてしまうと、制度全体が立ち行かなくなります。ちなみに、乳量換算すると、国内牛

乳生産量の10%強が輸入されています。



供給管理制度では、我々は生産するべき量を把握しています。この量は、乳製品の輸入量を考慮した上で設定され、全て乳脂肪量で計算されて、カナダ全土の各酪農家にクォータという形で分配されています。

### Supply Management

Are Canadian Consumers and Farmers Better Off with the Canadian Model?

**Key Findings:**

- Lower retail prices for most products
- American dairy groups calling for Canadian-style dairy policies.

A photograph showing several black and white cows in a barn setting.

供給管理制度は酪農家だけではなく、バリューチェーンの全ての主体に及ぶものです。Export Action Global という輸出関連のコンサルティング会社が世界の酪農制度についての比較研究を行い、カナダの供給管理制度は守るべきものであると結論付けられています。加えて、その分析では2017年のカナダの乳製品価格は米国より低いレベルであったと確認されています。Export Action Global は、アメリカの酪農家の中に、カナダの制度を導入すべきと言っている人がいることを明らかにしています。

### Dairy Farmers in Wisconsin (US) Explain Supply Management

A photograph of two men, Ralph Detlich and Murray Sheik, standing together. Below the photo is a caption: 'Canadian dairy producers and quota system leaders Ralph Detlich and Murray Sheik shared views on protecting dairy prices on dairy farms during a meeting hosted by the Wisconsin Farmers Union. Photo: Glenn Hestemeyer'.

カナダの酪農家数名が米国（大酪農州であるウィスコンシン州）に招待され、カナダで行われている供給管理制度について、カナダの業界全体にこの制度がいかにメリットを生み出しているのかということの説明をしています。

その重要性については、経済的、環境的、地域社会の観点からその持続可能性が実証されています。生産者から消費者まで、バリューチェーン全体に利益をもたらすものであるということです。

### Supply Management and Sustainability

<p><b>Economic Sustainability</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Fair prices to farmers</li> <li>• Retail prices in line with or lower than other countries</li> </ul>	<p><b>Environmental Sustainability</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Regional distribution</li> <li>• Balance production with environmental capacity</li> </ul>	<p><b>Community Development</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Farms viable in rural communities</li> <li>• Economic Spinoffs</li> </ul>
--	--	--

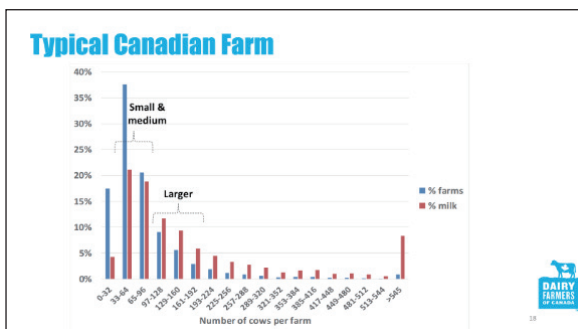
DAIRY SERVICES OF CANADA logo in the bottom right corner.

カナダ全土に家族経営の牧場が存在しており、環境許容範囲内でバランスが取れた生産をしています。5,000頭規模の牧場や、乳製品生産が集中するような牧場はモデルにはしていませんが、カナダ全体で見れば、1,000頭以上規模の牧場は幾つか存在しています。

## カナダ酪農の特徴



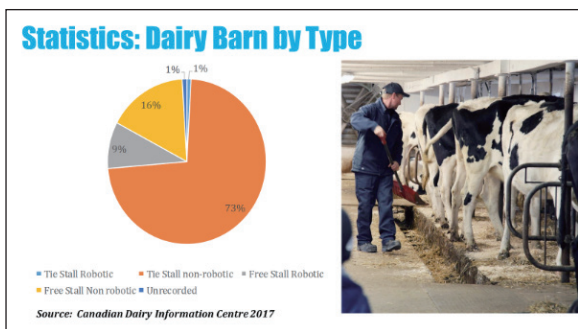
カナダの酪農乳業のシステムの概要、そして持続可能性への貢献についてご説明いたしました。ここからは牧場レベルで深掘りして見ていきたいと思えます。



カナダの典型的な牧場は、小規模あるいは中規模の家族経営で、30頭から100頭程の規模で、全体の58%、生産量では40%程を占めています。大規模牧場は100頭から200頭程の規模で、全体18%、生産量の28%を占めています。さらに規模の大きい1,000頭以上の牧場も存在しています。

近年、この状況は急速に変化しています。急激に生産量が増加していることが主な理由になりますが、数年前まで

は、牧場の規模はより小型のものが多く、30頭から60頭の小規模牧場がほとんどで、規模が大きいものでも、60頭から110頭程でした。プレゼンでは、この小規模と中規模牧場（30頭から100頭規模の牧場）をまとめ、数字として表示しています。



牛舎の種類について、小規模牧場ではタイストール牛舎が多く利用されており、牧場の73%がタイストールですが、需要に対応するために、2004年から2017年にかけて乳量が17%増加し、牧場はより規模の大きいフリーストール牛舎へ移行しはじめました。50%の乳牛がフリーストール牛舎で飼育されていると推測しており、今後増加するでしょう。

もう一つ興味深いことですが、カナダ全土においてロボットシステムへの関心が高まっており、約9%の牧場でロボットシステムが使用されています。

## 持続可能性（課題とチャンス）



持続可能性については、牧場の大小にかかわらず状況は同じです。また、日本、カナダ、オランダなど、いろいろな国で共通する課題があります。

・後継牛

Replacement Cows/Heifers		
	Small & Medium Farms	Larger Farms
<b>Cost of purchasing</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• North American market</li> <li>• Limited info and data availability on purchases</li> <li>• Heifers are generally raised</li> </ul>	
<b>Challenges</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Increasing costs of raising heifers over more than 2 years before entry into production</li> <li>• Identification and keeping most performant animals</li> </ul>	
<b>Opportunities</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Opportunity to lower costs: automation of calf feeding</li> </ul>	

飼養頭数を維持するために、通常は自家育成の後継牛に依存しています。必要に応じて近隣（主に北米の市場であり、基本的にアメリカと統合された市場）から調達が可能ですが、全国的な情報源がなく、情報を入手することは難しい状況です。

主な課題は、頭数維持をするためのコストです。頭数を維持しつつ、最も優良な未経産牛を維持するコストをバランスさせるには、長寿、パフォーマンス、維持コストなど、

それ以外の要素とのバランスを取らなければなりません。

生産開始前の未経産牛の育成コストは 1,800 ドル程です。これは日本円では 15 万 5000 円程です。小規模牧場は、多数飼養をする必要はありませんが、大規模牧場は、給餌に時間がかかるということで、新技術を導入しています。例えば哺乳ロボットなどを使うことも行っています。

・粗飼料と配合飼料

Roughage and Compound Feed		
	Small & Medium Farms	Larger Farms
<b>Market</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• North American market</li> <li>• Regional market for marginal shortages</li> <li>• Concentrates can offset lower feed quality/quantity</li> </ul>	
<b>Challenges</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• On-farm roughages</li> <li>• Concentrates mostly purchased</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• On-farm roughages</li> <li>• Less reliance on purchased concentrates</li> </ul>
<b>Opportunities</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Transportation cost</li> <li>• Expensive cost of land</li> <li>• Efficient transportation</li> <li>• Custom work</li> </ul>	

牧場は規模の大小問わず、北米市場にアクセスでき、調達することができます。

規模拡大するときは、土地を購入、または借り、濃厚飼料生産に供されます。例えばトウモロコシ、オーツ麦、大麦などを生産するために土地を購入します。しかし、土地購入はますます高価になってきており、生産者は農業生産と都市との間で、土地を巡って競争しなければなりません。地価はもちろん地域で大きな格差がありますので、状況は

異なります。

規模拡大につれ、より大きな機器も必要となり、規模の経済性が出てくるので、機器を購入することも正当化できるようになります。また、共同で高価な機械を購入してシェアするというやり方もありますし、専門の機械を持つコントラクターを雇うこともあります。場合によっては、自ら大型機械を購入して、他の牧場のためにコントラクターとして雇われて働いているところもあります。

・資本

Capital Funding		
	Small & Medium Farms	Larger Farms
<b>Return on investment</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Canadian Dairy Commission Mandate: provide the opportunity to efficient farmers to obtain a fair return for their labour and investment</li> </ul>	
<b>Challenges</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Increasing interest rates</li> <li>• 5.34% in 2018 vs 4.64% in 2016 (+15%)</li> <li>• Farm expansion requirements</li> <li>• Lower fixed costs</li> <li>• Producers' management skills</li> </ul>	
<b>Opportunities</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Predictability of revenue stream (supply management)</li> <li>• Provincial programs for new entrants</li> <li>• Equipment sharing to reduce costs of production</li> <li>• Growing market in Canada</li> </ul>	

資本コスト・労務費・人件費について、カナダ酪農委員会では生乳生産コストを毎年評価しています。

牧場が受け取る牛乳の価格は、投資収益を含んだものです。生産者は個々に、コスト削減によって収益性あるいはリターンを高める努力をしていますが、困難な側面として、金利が 2016 年から上昇している状況があります。2016 年は 4.64% だったのが、2018 年には 5.34% になりました。15% の利上げです。一部の生産者は、不確実性が起こっ

ているということで不安に思っています。併せて、農機具あるいは土地の買収コストなども上昇してしまっていることが懸念されています。

二つ目の課題は、生産者は生産拡大により効率性を改善し、固定費を削減していく必要があるということです。生産者は資金を借り入れるための財務力もなければなりません。例えば、少額投資であれば生産コストを下げるこ

も可能かもしれないけれど、規模を2倍にするというニーズがある場合には、財務力が十分ないと資金を十分借り入れられないため、それは叶いません。

さらに、新しい機器の購入、あるいは追加割り当て（クォータ）を取得することは、牧場管理そのものに影響します。投資をきちんと計画しなければならないし、新しい技術も導入しなければなりません。そして自分自身も従業員もトレーニングを受けなければなりません。

一方で、プラスの側面ももちろん見なければなりません。例えば、供給管理制度によって収入に関する予測可能性が高まり、生産者、貸し手、新規就農者にとっても確信が持てます。新規就農者のプログラムもあり、資本コスト負担を少し軽減することができます。これについては、後ほど少し触れたいと思います。

機器を共有したり、コントラクターを活用したりすることについては既に触れました。両方とも資本生産性・効率性を高める方法と言えます。最大のメリットの一つは、生産者がより安いコストで最先端の技術あるいは機器を利用できるということです。例えば、新しい機器を購入する前に30年ぐらい使うことができれば、その間リターンがあります。ポイントは、その農場の経営形態に最も合ったオプションを選択しなければならないということです。

### ・労働力

Labour		
	Small & Medium Farms	Larger Farms
<b>Employees</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Owner &amp; family</li> <li>Part time &amp; full time employees</li> </ul>	
<b>Challenges</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Attract and retain skilled employees</li> <li>Distance between labour and farms</li> <li>Seasonality &amp; turnover</li> </ul>	
<b>Opportunities</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Automation</li> <li>Sharing employees between farms</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Automation</li> </ul>
<b>Others</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Temporary Foreign Worker program</li> <li>Labour Market survey in all agriculture sectors                             <ul style="list-style-type: none"> <li>National &amp; provincial commodity-specific forecasts</li> <li>Participants surveyed from Oct 12 to Nov 30, 2018</li> </ul> </li> </ul>	

カナダの牧場は、規模の大小問わず、通常は家族経営で、課題は共通しています。従業員を確保するのが非常に難しくなっており、非常に高い離職率が問題になっています。都市化の現象に伴い人々は農場を離れ、つながりが薄れてしまっています。

もちろん酪農は決して楽な仕事ではありません。自動化はもちろん一つの解決策になり得ますが、コストがかかります。小規模牧場では、従業員をシェアしている場合もあ

ります。そうすることでより競争力のある給与を従業員にも払えるようになります。

従業員がいない牧場では、仕事は週7日のペースで行われ、休みはほとんど取れません。彼らも従業員を一時的に雇えば、負担は軽減されますが、そのためには経営能力が必要ですし、人材なども確保しなければなりません。例えば、教育に時間を割く必要がありますし、従業員に対してもある程度自立性を提供しなければなりません。自分とは違うやり方を従業員が取っていたとしても、あまりうるさく言うようでは嫌われることがあります。

生産者を支援するプログラムも整備されています。例えば、外国人労働者一時雇用プログラムというのがあり、季節性のある農業生産を行う酪農セクターでも利用されています。外国人労働者は多くの場合、夏の期間にやって来て、生産期間のピーク時に労働し、数カ月して母国に戻ります。

人手不足は深刻な懸念です。カナダの農業人材委員会は、農業分野の人手不足を把握しようと調査を行っており、酪農乳業部門の状況がより深く分かる結果が期待されます。生産者は明日までに情報提供することになっているので、数週間後には結果が出ると思います。

### ・継承とその管理

Farm Succession & Management		
	Small & Medium Farms	Larger Farms
<b>Programs</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Administered at the provincial level</li> </ul>	
<b>Challenges</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Specific case study for every transition                             <ul style="list-style-type: none"> <li>Familial situation</li> <li>Financial situation / lack of capital</li> </ul> </li> </ul>	
<b>Opportunities</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Predictability under supply management</li> <li>Tax policies</li> <li>Involvement from young farm leaders in policy development</li> <li>Education</li> </ul>	

毎年、少数の牧場が継承の手続きを行います。カナダの各州には独自の条件を持つプログラムがあり、各案件は個別に取り組んでいく必要がありますが、一般化することはできませんが、家族および財務の観点から説明します。

家族の観点では、継承問題を考えたときに関わってくる資本、あるいは子どもが多ければ多いほど、親の側は、牧場の持続可能性のために難しい選択を迫られることになり

ます。家族状況が変化していくことが想定される場合には、より複雑になります。例えば、若い生産者は、農場の未来を危険にさらさないためにも、将来、もしかしたら離別の問題、離婚などがあり得る、そういうことも想定しておかなければなりません。いろいろな文書を作っておいて整備し、その後、問題が起きたとしても、農場の持続可能性に害が及ばないようにしなければなりません。過去からそういう問題はいろいろありましたが、現在は家族状況の変化はますます起こり得ます。

財務の観点では、若い生産者は牧場を引き継いだ当初は、潤沢な資本は持っていません。検討すべきことはたくさんあり、引き継いだときに牧場で発生しているコスト・経費、負債レベルなどを考えなければなりません。多くの場合、この時点での資金は教育水準に応じてもらえる助成金、あるいは新規就農者を支援するような州のプログラムです。例えば、クオータのローンを受け取ることが可能です。特定の期間、ローンを受けることができ、その後は返済していく必要があります。いずれにしても、ある一定の期間、引き継いで、開始したときには猶予が与えられるという事です。

子どもに牧場が贈与されるような場合、または低い価格で譲渡された場合でも、渡す側の両親は残りの負債や税金を払わなければならない、老後にそういう支払いをし続ける必要があります。継承計画は、そのようなことを考慮して作成しなければなりません。過去においては、多くの親御さんは農場の収入資金をすべて農場に再投資していました。現状制度の下で、それは推奨されていませんが、親御さんが昔から稼いできたお金の多くは、農場に再投資されているのです。継承してから最初の数年は、何らかの形で農場を賄うための計画が必要です。

牧場の継承を促す要素として、供給管理制度は触媒になり得るいいものだと思います。牧場にとって安定した市場環境を提供し、計画の立案を促すこととなります。クオータを取得するコストは、制度の性質上、非常に高く付きますが、ローンを取得するリスクがより低くなります。牧場収入が前年比50%以上変動しないことが分かっている場合には、とても有利なプログラムです。カナダでは安定した価格の状況があるので、過去10年に比べて有利な状況になってきています。

税制上も、生涯にわたるキャピタルゲインの控除という制度があります。この政策は非常に幅広いもので、酪農もその恩恵を受けています。この制度はキャピタルゲインの50%が課税対象で、政府が定期的に見直している上限値が適用されます。これは農家にとってとても役に立ち、牧場を譲渡した際に、税額を軽減することができ、新規就農者はそんなに負担を心配しなくていいのです。

若きリーダーは、酪農政策の作成に参画しています。これはたやすいことではなく、牧場を引き継ぎつつ、政策討議に関わるのは非常に労力が要ります。しかし、経験を共有し、お互いに学び合うことがカナダ全土で行われており、それらの経験が酪農の改善につながっています。

生産者は、生産に携わる前によく教育を受けており、経営の観点からとても役に立っていると思います。若い生産者は、牧場の実態に対応する準備がきちんとできています。これは政府から教育水準に応じた助成金が出ているということに影響されています。

・ 地域社会

Local Community		
	Small & Medium Farms	Larger Farms
<b>Economic activity</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Economic spin-offs of dairy farming in local communities</li> <li>Artisanal production / niche market</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Economic spin-offs of dairy farming in local communities</li> </ul>
<b>Challenges</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Positive impact of dairy farming is realized in the local community after the farm disappears</li> <li>Maintain dairy farming activities</li> <li>More vocal on negative farming externalities (noise, odour, environmental concerns)</li> </ul>	
<b>Opportunities</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sustainability of dairy production                             <ul style="list-style-type: none"> <li>Young farmers have fora to share their experiences and learn from others</li> </ul> </li> </ul>	

重要なポイントとして、酪農は地域経済およびカナダ全体の経済にとってもいい影響を与えており、牧場は規模の大小を問わず、大きな貢献をしています。市場の発展が急速であることを受けて、小規模牧場は、より大規模化するというよりも、多角化を推進する傾向にあります。例えば、特別なチーズの工房を併設するなどということを通して地元経済に貢献しますし、観光の発展にもつながります。そういう農家がなくなって初めて、地元はその経済的な貢献

に気がきますが、それは非常に惜しいことです。農場がなくなってしまうと、取り戻すことは非常に困難です。



生産者が成功するためには、地域との調和がとても大事だということを十分認識しています。なぜこういうことを言うかと申しますと、例えば、悪臭や騒音、あるいは環境保護対策などきちんと行わないと、生産者として適正規範を行っていないということで批判を受けます。単なる規制の順守では駄目であり、地元の事情に配慮する必要があります。国のレベルだけではなくて、小さな自治体においても、生産者が規制の順守、環境懸念への対策を打つこと、そういうものが問題になっている場合がありますが、やはり適正規範という形で対応する方が、生産者にとってもいいということが分かっています。

・ 政府の役割

Government	
	All Farms
<b>Administrative role</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Border controls</li> <li>• Pricing</li> <li>• Production forecasting</li> </ul>
<b>Challenges</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Front-of-pack labelling, food guide, marketing to children</li> <li>• Carbon tax</li> <li>• Tax policies</li> </ul>
<b>Opportunities</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Agri-Food economic strategy to maximize the potential of agriculture</li> <li>• Industry and government working together to identify elements of long term prosperity of the dairy industry</li> </ul>

政府は供給管理制度の行政運営主体であり、貿易管理、価格設定、生産予測を業界向けに提供しています。

その一方で、酪農生産に間接的に介入していますが、残念ながら、必ずしもいい影響ばかりを与えるわけではありません。例えば、政府は今後 Front-of-pack labelling、食品のラベル表示を導入する予定です。例えば、ヤギのチーズであれば、砂糖、塩分、または脂肪を 15%以上含む製品は、そのようなラベルを貼ることが義務化されます。し

かし、そうなるとほとんどの乳製品がその対象になってしまいます。その方向に向かうかどうかは、これから見守っていく必要があります。

政府は税制措置の導入・撤廃、あるいは改正する権限も持っており、生産者にプラスにもマイナスにも影響します。政府が率先して行ったキャピタルゲインの控除はプラスの影響があります。一方で、炭素税は生産コストを増加させることになりました。

近年、カナダの農業が経済成長のエンジンであると認識しており、農業の潜在性を最大化しようと決定しています。酪農乳業は政府と協力して、持続可能性、長期的業界の繁栄に必要な要素を特定しています。産業界はこの機会に、貿易協定を受けて自らの位置付けを見直しています。ご存じの通り、私たちは CETA 協定という EU との包括的経済貿易協定を持っていますし、環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的協定 (CP T PP)、直近での米国、メキシコ、カナダにおける FTA もあります。これらは一部、マイナスの影響をもたらすということも含めません。近い将来、そういう影響が出てくることを懸念しています。

・ 国際貿易

International Trade	
<b>Trade</b>	18% Imports • WTO, CETA, CPTPP, USMCA
<b>Challenges</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• More market access than opportunities for market developments in recent trade agreements</li> <li>• Extremely limited potential for exports</li> <li>• Competition with subsidized dairy from other countries</li> <li>• Investments reviewed by the whole dairy industry</li> </ul>
<b>Opportunities</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Building on consumer trust</li> <li>• Strong and positive consumer opinion towards the Canadian dairy industry</li> <li>• Growing domestic market that requires additional investments to sustain milk production</li> </ul>

カナダ政府は 3 本の貿易協定に調印し、酪農産業に大幅なマイナス影響をもたらすと懸念されています。それは、外国製品の市場アクセスを高めるものとなっている一方で、私たちのシステムは価格が比較的高いため、輸入品の方が有利なのです。従って、市場アクセスは限りなく高まるとは思っていますが、その一方で輸出の機会是非常に限られています。

ここで忘れてはならないのは、酪農乳業は、アメリカあるいは欧州などでは極めて高い補助金が注入されていることです。今、カナダの乳業界は、一部予定されていた投資、近い将来予定されていた投資の見直しをしています。それは、貿易協定を受けて不利になることを懸念してのことです。

国内マーケットはまだ堅調であり、チャンスも残っているため、成長の潜在性はあると思っており、そういう意味で、一部投資は継続していかなければなりません、これらの貿易協定によって不確実性が高まっているということも否

めません。

幸い、酪農乳業はカナダ産品への消費者の強い支持を獲得しています。生産者はこれを基に国内需要を伸ばす努力をしています。この3本の協定の大半が実施される2024年には、5年かけて輸入が18%を占めるだろうと予想されています。我々は協力し合ってその影響を最小化し、酪農の成長を持続させるための努力を行っています。

## まとめ



カナダの酪農家の観点から明確なことがあります。供給管理制度は、農場レベルにおいて、経済・環境・地域社会の持続可能性という観点からの継続的發展にとっても重要な役割を担うだろうということです。

もちろん、完璧な制度ではありませんが、新しい市場環境に適応し続けていく必要があります。それは、生産者、消費者、加工業者、政府に、この制度の恩恵が続く限り、カナダの酪農乳業全ての利害関係者は今の制度を強く支持

していくと予想されるからです。

そのためにはみんな協力しなければなりません。産業界の繁栄や持続可能性を、それぞれの努力を通して担保していく必要があります。